

# 東日本大震災における原発災害被災者の 人間関係葛藤の変容支援プロジェクト

—修復的正義等を用いた—  
水俣へのツアー

石原明子(熊本大学)  
aishi@kumamoto-u.ac.jp

震災後とくに原発災害の被災地や被災者に  
何が起きているのか

原発災害

東日本大震災

地震

津波

©Akiko Ishihara 2016

# 東日本大震災 3.11 (2011)

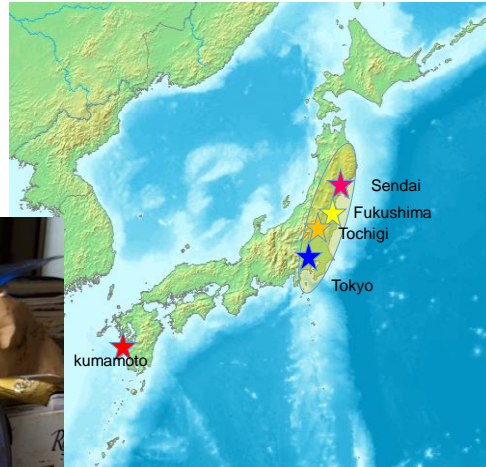
2:46pm M:9.0

+

東日本大震災

39.9m の津波

死亡・不明者 26,000 以上



©Akiko Ishihara 2011

## 東京電力福島第一原発事故

\*電源喪失(+配管破損)

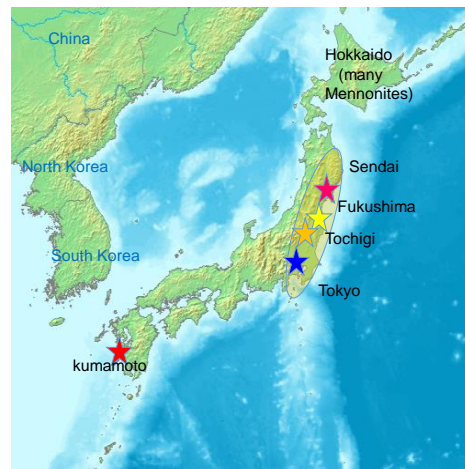
→ 冷却ができなくなる

→メルトダウン

→水素爆発

\*レベル4→7

(4月12日, 震災から一か月後)



©Akiko Ishihara 2011

## 子どもをもつ親御さんたちの心配・悩み(2011.7)

### 1. 子どもの学校生活

>除染 (校庭の表土剥ぎは小学校では終わったが中学校以上ではまだ)

>部活など日常生活の継続が大丈夫か

>学校給食で地産地消を続けるとの教育委員会の方針について

### 2. 何が危険で何が大丈夫かという具体的な情報

どの道が？ どの食物が？ どの料理方法が？

洗濯ほしや窓あけは？ —ただ「安全です」だけじゃ困る！

### 3. 地域や家庭での人間関係のコンフリクト

©Akiko Ishihara 2011

## Background of Family Conflict

### 1. 情報ソースと内容の違い

母親: インターネット、県外の友人から

父親: 会社、男性誌、新聞

祖父・祖母: NHKや政府広報

Cf. 福島県内の新聞と全国紙の差もある

### 2. 県民性としての集団凝集性、仲間意識 (日本の伝統社会)

### 3. 心理的防衛反応

### 4. 高ストレスとアクトアウト・アクトインとしての傷つきの連鎖

### 5. 長男としての役割、母親の役割

### 6. 土地への根付き方の違い

## 地域や家庭での人間関係上の葛藤と分断

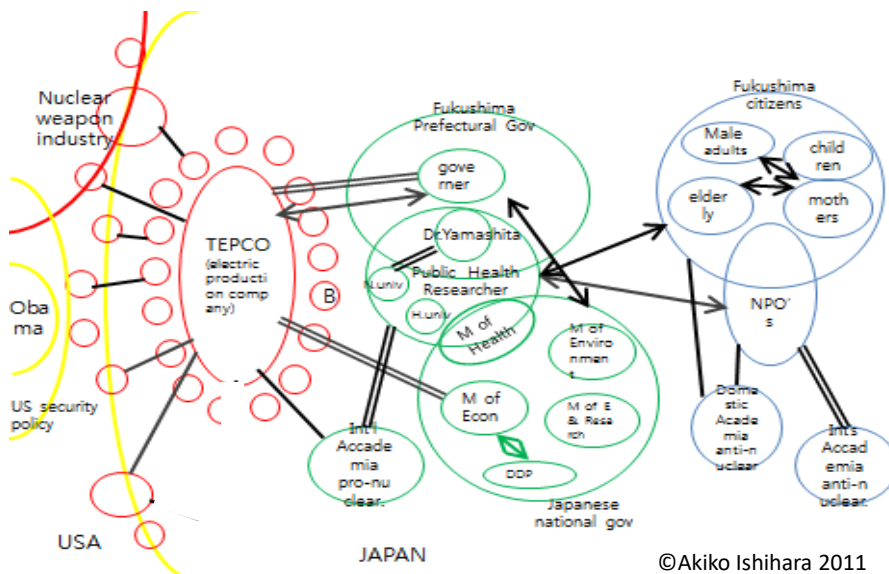
- 家庭: 母親 vs 父親/おじいさん、おばあさん (原発離婚)
- 避難した人としらない人との間での絶縁 (「裏切り者!!」)
- 農家と子どもを持つお母さん(敵は目の前にいた!)
- お金をもらった人ともらえない人・補償の対象になる人ならない人
- 学校でのいじめ
- 放射能を心配する人・しない人(することに疲れた人)  
マスクをするか、学校水泳に参加するか、九州から野菜取り寄せるか

本当の敵はあなたの隣の人ですか？

©Akiko Ishihara 2011

## 利害関係図

(原発災害の被災者の方の家庭のコンフリクト)



## 関係者・社会資源の権力関係図



©Akiko Ishihara 2011

## 災害における ストレスとコンフリクト

大規模災害後には、社会の中で大きなコンフリクトが起こりがちです。

環境災害のケース、とくにそれが人間の・・・では、起こりやすいのです。水俣のケースでわかるように・・・。それはなぜか。

©Akiko Ishihara 2011

## 災害→コンフリクト (傷ついた社会)

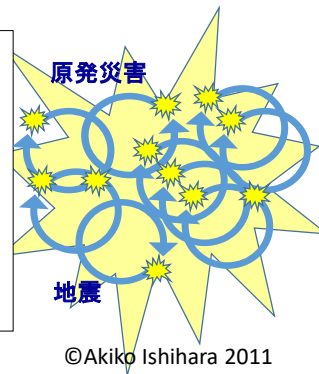
### 大規模災害:

災害にあった社会のすべての存在(人々,政府,企業)が傷つき、大きなストレスを得て、被災者サイクルの中に入ってしまった。

“傷ついた社会、コミュニティ”(恐怖に支配されている)

### 傷ついた社会の「症状」

- ・心理的変化 (ショック, 否定, 恐怖感, 怒り, 悲しみ)
- ・真実を語ることの困難・情報隠し
- ・民主主義からの退行
- ・人間関係の崩壊
- ・善・悪や敵・味方という語り
- ・社会的排除, いじめ
- ・カルト宗教・ヒロイズム(ファシズム)
- ・アイデンティの強化(「私たち」は「あなたたち」と違う) など。



## 環境災害・環境汚染--> コンフリクト なぜ?

(1) 環境災害・汚染は、人為が想定される

→ ある種の 被害者—加害者関係が想定される

自然災害 < (人が関わった)事故 < 意図的な暴力行為

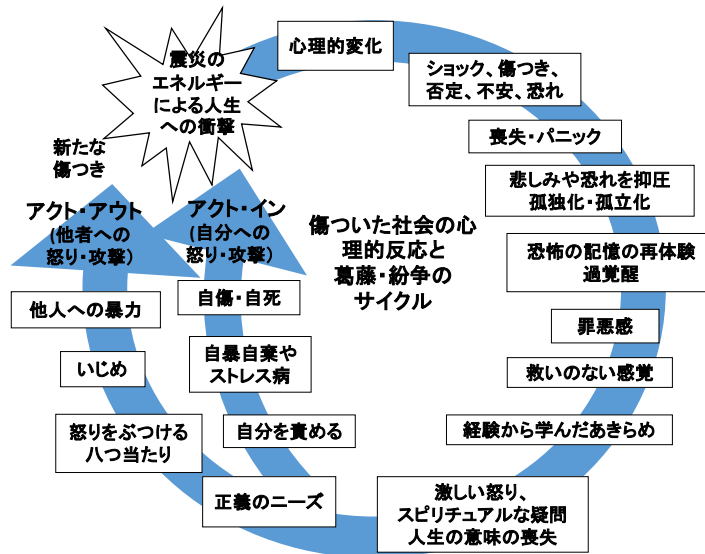
(2) 既存の裁判制度や補償プロセスにおける敵対的な交渉過程がコンフリクトを誘発する

(3) 環境は文字通り人間を取り囲むものであり、それが汚染されたときに、ストレスに囲まれるような状態になる。特に自然環境は、人間のベーシックニーズを支える重要なものであるので、それが壊されたときに、人間は脆弱性を増す。

★災害による被害は、社会階層の低いほうに蓄積する傾向がある

©Akiko Ishihara 2011

## 被災者の心理・行動サイクル

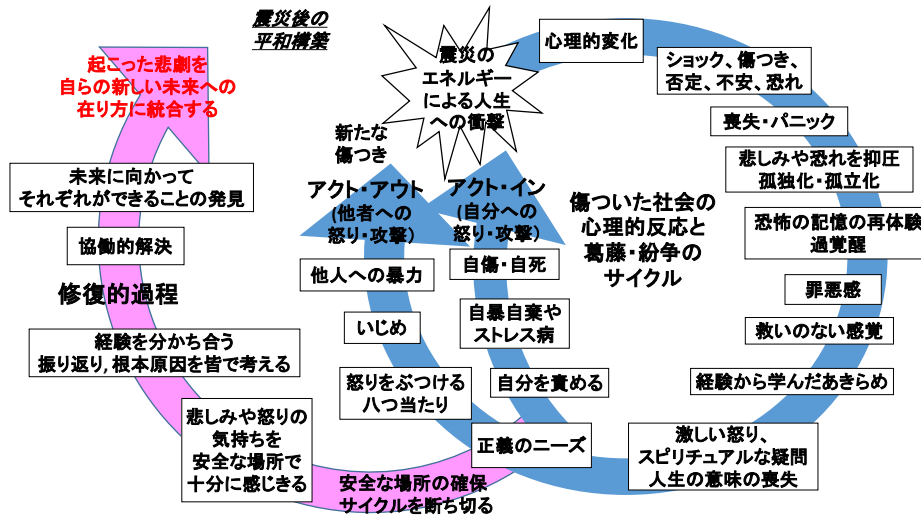


## すべての人が傷つき、恐れ、またニーズをもつ

誰	立場・主張	利害とニーズ	感情
市民	情報公開を詳細に‘透明に！’	自分や家族の健康を守りたい	恐怖
政府	詳細な情報を公開せずに「福島は安全です」という	人口流出を恐れる	恐怖
東電	情報は出したくない	事業・ビジネスを続けたい	恐怖

誰	立場・主張	利害とニーズ	感情
妻	放射能や避難について夫と話したい	子どもを守りたい	恐怖
夫	放射能のことは口にするな！	子どもや家を守るために、仕事が必要。福島を動けない。	恐怖

## 傷ついた社会からの対話を通じた修復的再生モデル図



©Akiko Ishihara 2011

## 喪の作業への障害

- ・ 圧倒するような感情が出てくることへの恐れがあるとき
- ・ 起こったことに向き合えないとき
- ・ すでに知られている“秩序”への脅威となるとき
- ・ 真実を手に入れることが難しいとき
- ・ ト라우マが現在進行形であるとき
- ・ 通常の儀式を行うことができないとき

©Akiko Ishihara 2016

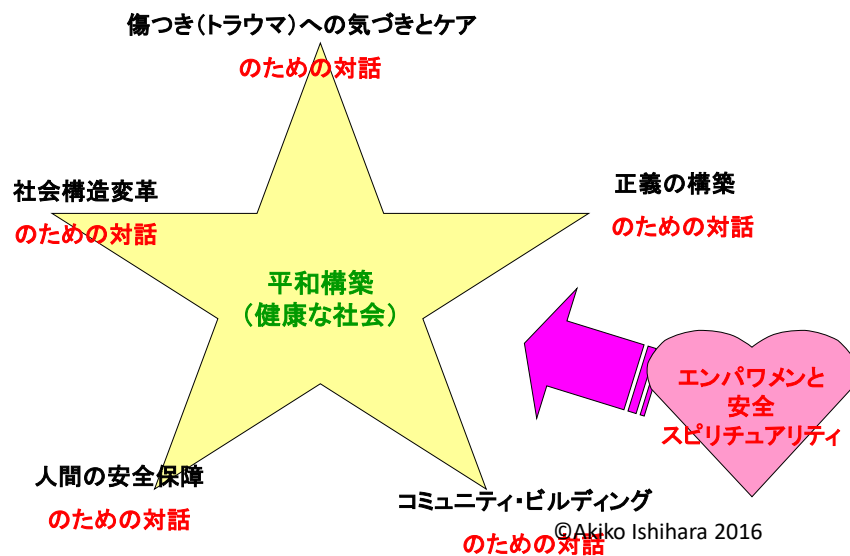


## 個人や社会における他のディストレス・サイン

- ・アパシー(市民生活、政治、開発などに対するアパシーを含む、また、低生産性)
- ・コミュニケーション障害(沈黙、真実を抑圧する)
- ・共感の欠如と違いに対して不寛容になること
- ・二項対立化、これかさもなければという考え方
- ・信頼することができなくなる
- ・環境劣化
- ・高い割合での性機能障害と売春
- ・高い割合での医療利用

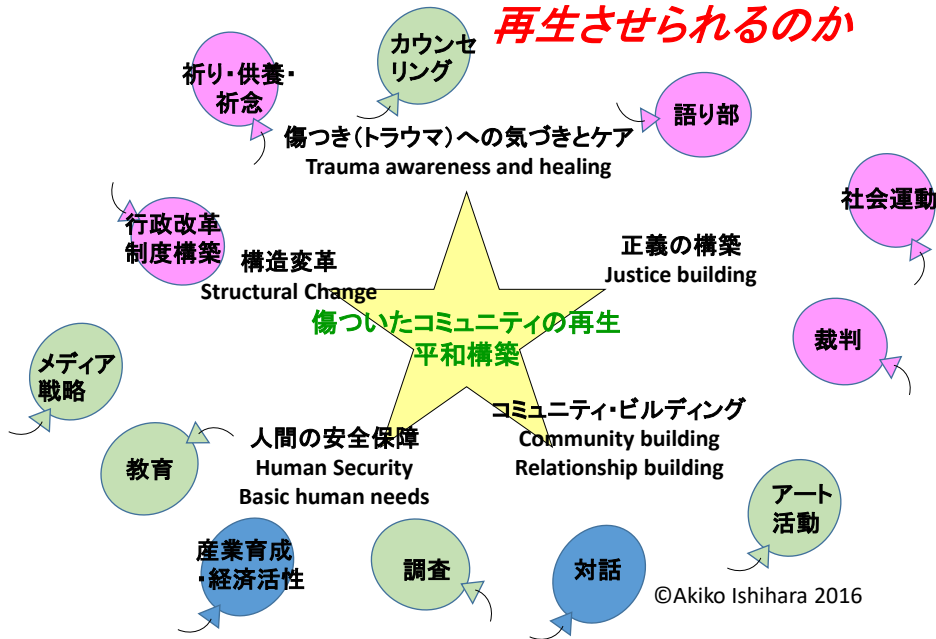
©Akiko Ishihara 2016

## 対話支援による平和構築



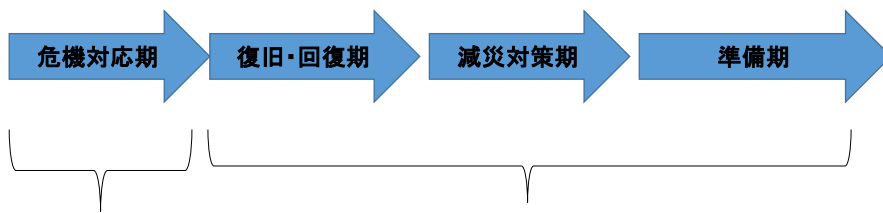
©Akiko Ishihara 2011

## どのようにして傷ついたコミュニティを再生させられるのか



### Dialogue strategies for peacebuilding 1

## 災害マネジメントサイクルにおける対話の位置づけ



主に  
トップダウンが有効

- \*ボトムアップ (合意形成アプローチ・協働的政策形成)
- \*利害関係者間の政策形成のための対話

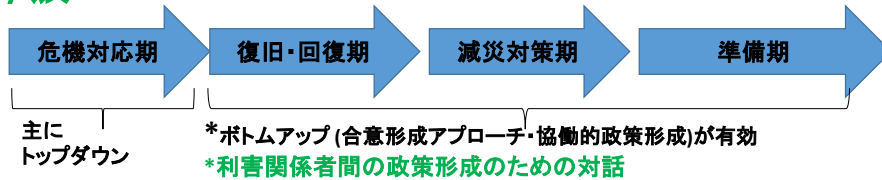
Cf. PDCA cycle

©Akiko Ishihara 2011

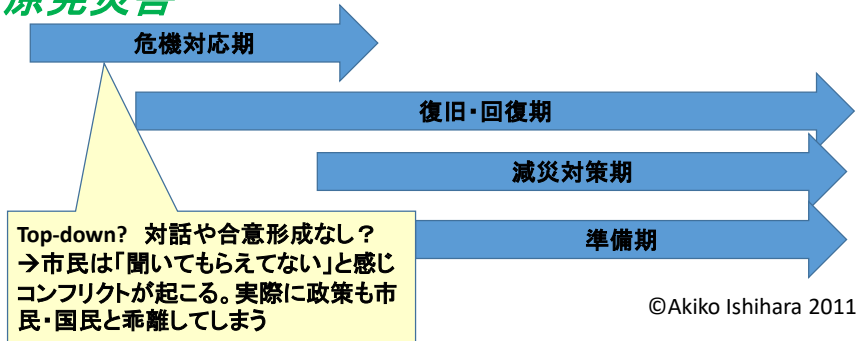
Dialogue strategies for peacebuilding 2

## 災害の種類と災害マネジメントサイクル

### 津波



### 原発災害

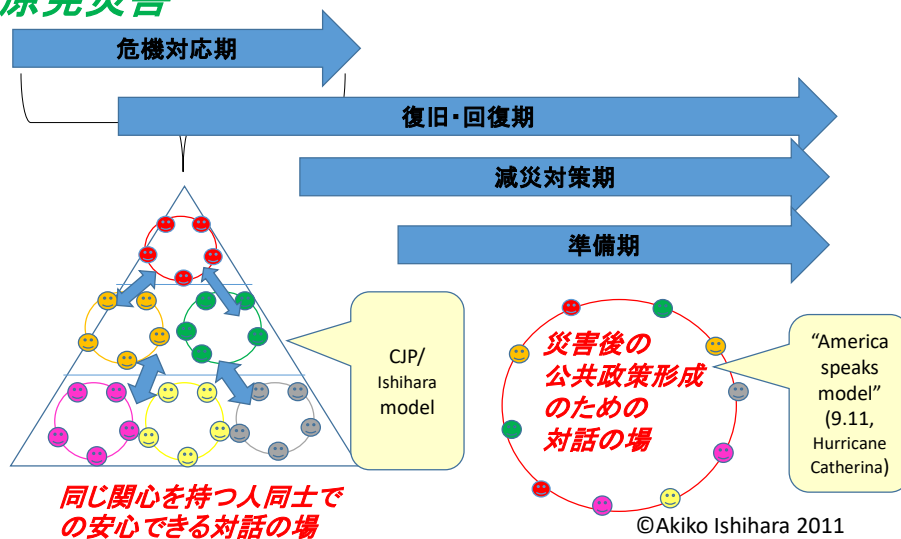


Dialogue strategies for peacebuilding 3

## 対話促進のためのツーフェーズモデル

(Ishihara)

### 原発災害

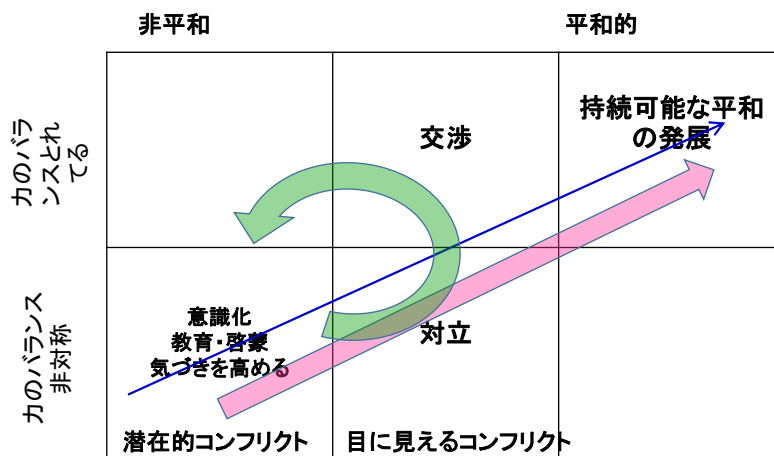


# 原発災害問題への修復的正義の 応用への壁！

1. 利害関係者間の力の関係の差 (東電・行政・産業界 VS 被災者)
2. 日本人は、葛藤や紛争を表に出すのを避けたがる (対立や葛藤がある相手と向き合って話し合うのが苦手)

©Akiko Ishihara 2011

## 力が非対称な利害関係者同士の紛争変容モデル アダム・カール1971



©Akiko Ishihara 2016

## 原発災害問題での正義の実現と和解・平和構築のために

どのように修復的正義のエッセンスを生かすのか？

- 1) 構造的暴力・力の差のある状態
- 2) 直接的な加害者と被害者の対話が苦手な文化
- 3) 互いの傷つきがある

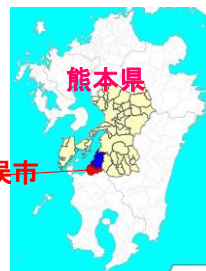


- ・水俣へのスタディツアー
- ・水俣と福島をつなげる

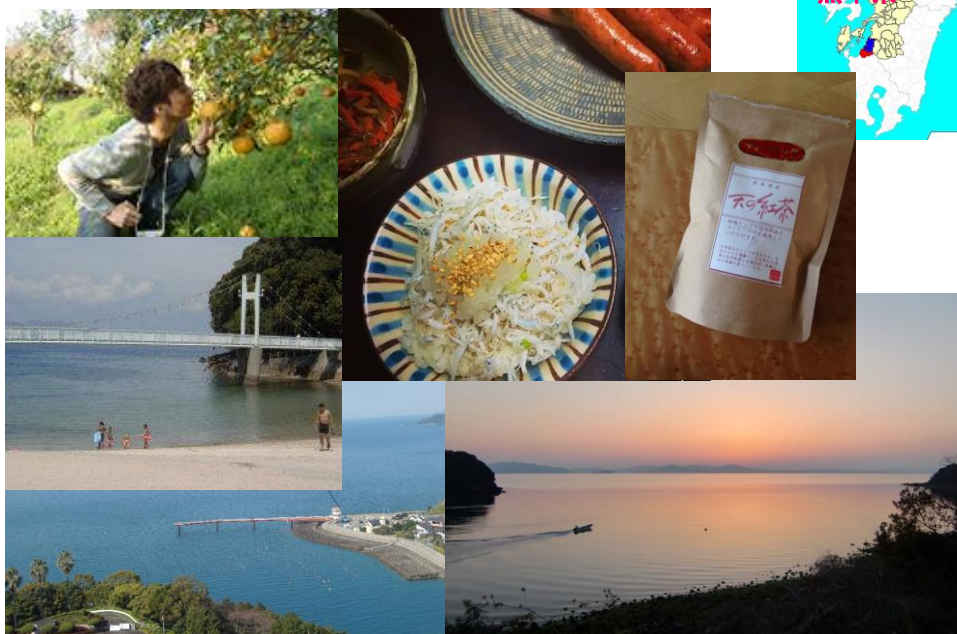
©Akiko Ishihara 2011

# 水俣の話

# 水俣ってどんなところ？



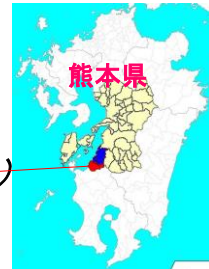
# 水俣ってどんなところ？



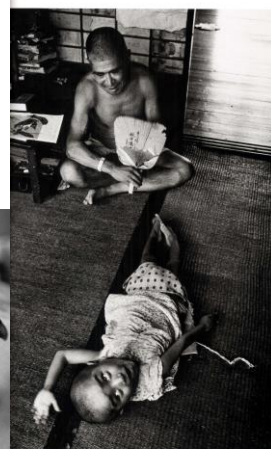
## 水俣病事件・水俣病問題:

チツソの工場排水に含まれた有機水銀  
による不知火海の汚染と健康被害(水俣病)

- 1956年 最初の患者の公式確認(水俣病公式な発生)
- 1959年 熊本大学医学部 チツソの工場排水中のメチル水銀が原因という説を発表  
研究班解散させられ→国の研究班  
チツソ病院による猫実験(チツソも原因確認)
- 1968 5月 アセドアルデヒドの生産終了  
9月 チツソの工場排水原因と政府が公式に認める
- 1973 3月 第一審判決 患者勝訴



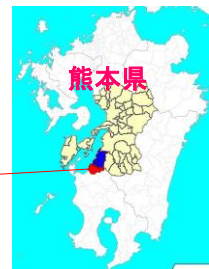
- ・原因がわかって9年間原因は隠し続けられ、汚染水は流された
- ・伝染病・貧乏人による病、お金がほしい人の病として患者は偏見を受けて声が挙げられなかった。



## 水俣病事件・水俣病問題:

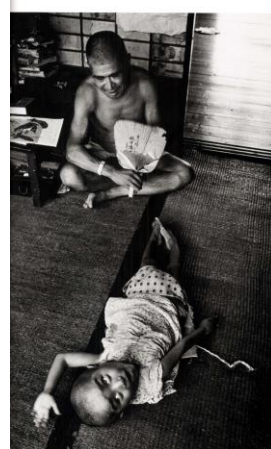
チツソの工場排水に含まれた有機水銀  
による不知火海の汚染と健康被害(水俣病)

- 原因がわかってからも、患者への差別と嫌がらせ  
また、全国から水俣への差別は続いた



### <和解(もやいなおし)の開始>

- ・1994年の吉井市長の公式謝罪
- ・患者と政治と行政
- ・さまざまな取り組み  
対話、語り部、資料館、実生の森、  
アートによる子供の絵の水俣のビジョン
- ・若い世代でなくなってきた偏見、  
しかし今も続く裁判、増え続ける患者申請



## 修復的正義(和解と正義)のリーダー: 緒方正人さん(漁師・被害者)



「私がチツソであった。この世で最も赦しが必要なのは  
チツソである」

**制度ではなく個人へ**

©Akiko Ishihara 2011

## 修復的正義(和解と正義)のリーダー: 杉本栄子さん(漁師・被害者)



父は言った「水俣病をのさり  
(天からの恵み)と思え」  
「人を嫌いになっちゃいかん。  
昔はいい人じゃった」

「水俣病は、自然に対して人間がしたことへ神様が怒っ  
て、その罰を誰かがうけなければいけないなら、隣の誰  
かではなくて私に罰が当たってよかった」

**正義へのいざないとしての赦し (invitational  
forgiveness)**

©Akiko Ishihara 2011



## 変化をもたらす水俣への旅

参加者: 福島の20代から40代のリーダー

(福島の違う地域、違う立場から=コンフリクトあり)

いつ: 2013年~2014年 3日、4日間

目的----セオリーオブチェンジ (キーパーソンアプローチ)

- 1) 構造的暴力への気づき
- 2) 福島の方々が、水俣を通じて、福島の構造的暴力の状況について少し距離を置いて、かつ深く考える機会を作る。
- 3) 福島の人々が修復的正義の文化(和解と正義の文化)を水俣から学ぶ
- 4) 福島の方々が、水俣の修復的リーダー・和解と正義のリーダーと出会うことで、精神的・知的・霊的な変化をもたらされる

<2次的目的>

5) 分断を抱えた人々が、ともに修復的正義(的な)哲学に触れることで、関係性に変容が起こる

・福島内部での分断の変容 あるいは ネットワーキング

・福島在住者と、熊本避難者、熊本支援者、熊本の一般市民の関係性の変容

6) 水俣と福島の継続的な共に歩む関係

©Akiko Ishihara 2016

## ツアーの内容

1) 水俣病事件の歴史を学ぶ(フィールドワーク)

構造的暴力への気づき

コンフリクトの根本原因への気づき



## Program Contents: Transformative Tour to Minamata

- 2) 水俣病被害者と出会う(安全なスペースで共に泣く)
- 3) 水俣病の修復的リーダー(赦しと正義のリーダー)と出会う



- 4) 水俣の同世代と出会う(飲み会！)

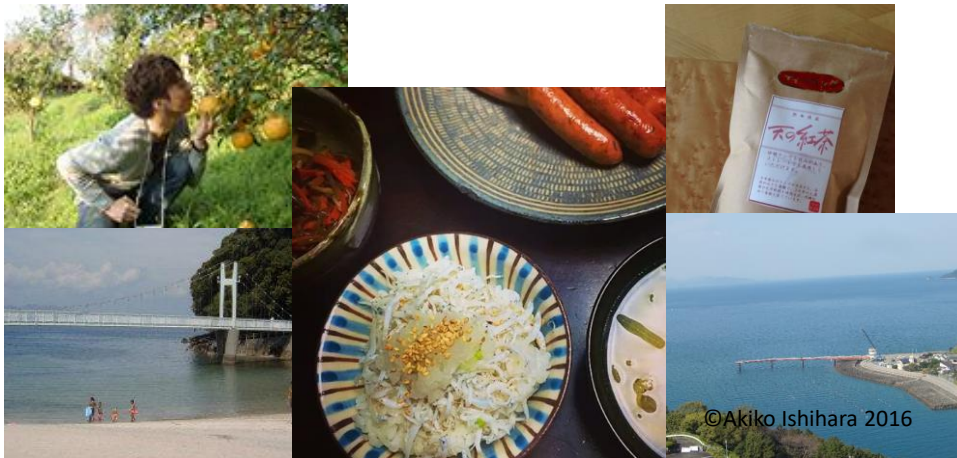


過去と未来が出会う瞬間  
 福島の若者(第一世代・過去)が  
 水俣の若者(第三世代・未来)に出会う

©Akiko Ishihara 2016

5) 水俣の再生の象徴的なところを訪ねる（悲劇は、未来への大切な種） → “水俣には色があった! 福島にも色がある……”

明るい未来への感覚……。



## <印象的だったこと>

- 1) 杉本肇さん(受難と赦しのリーダーの杉本栄子さんの長男)が、泣きながらいった「福島の人たちたちに謝りたい。もし、自分が水俣病問題にもっと早く向き合っていたら、福島原発事故は防げたのではと思う。自分は福島原発事故に責任がある」
- 1) 福島の人たちは、言った。他のどこに行っても「大変ですね。がんばってください」とは言われる、ここ水俣では、「一緒にがんばろうね」と声をかけてもらえる。

©Akiko Ishihara 2016

## 結果

1. 福島の若手リーダーのエンパワメントと変化
2. 水俣と福島の継続的交流
3. 構造的暴力への気づき
4. 修復的正義的アプローチへの気づき
- 
5. 水俣の人たちも、福島を通じて変化した



↓  
多くのスピノフプロジェクト

©Akiko Ishihara 2016

## 新しく生まれつつある動き

- (1) 2013年12月: 水俣訪問報告会「大きなりんごの木の下で」@福島市 いわきでの報告会
- (2) 2014年2月: 福島大学の学生の企画による福島と東京の大学生による水俣訪問
- (3) 福島の若手女性による水俣の商品開発提案
- (4) 2014年8月: 福島Girl Cafeに、水俣の若手(男女)の招へい@郡山市
- (5) 2014年8月: 福島で水俣の映画「のさり」の上映会@いわき
- (6) 水俣の人々を福島に招いての語り部講座(検討中)@南相馬、(7) 水俣コミックバンドの福島への招聘(検討中)@南相馬
- (8) 2014年9月: 福島の研究者を福島の若者が水俣を案内
- (9) 2014年度から: 水俣の地元学の福島への応用による地域再生事業
- (10) 2014年8月: 水俣もやい直しの「水俣ハイヤ節」を作った民族舞踊団による福島訪問と支援@双葉郡(この訪問自体は、「しゃべり場」による発生ではないが、そこでの人のつながりの強化)
- (11) フェイスブック等での福島の人からの水俣についての発信、水俣の人からの福島についての発信 などである。
- (12) 水俣と福島の定期交流事業



水俣ハイヤ:もやいのダンス

## 福島若手・中堅リーダーへの水俣(紛争変容)ツアー

### セオリーオブチェンジ:

1) 構造的暴力も含め、環境災害において、どのようにしてコミュニティの分断がもたらされるかのアウェアネス・レイジングを福島のキーパーソンたちにもたらし、彼らから構造的暴力への認知(と闘い方)を福島の他の人たちに伝わっていく

2) 福島のリーダーたちが水俣の修復的哲学の先人に会うことで、リーダーたちの心の中で修復的な変容が起こり、修復的な変容の要素・哲学が、彼らによって福島の他の人たちに伝わっていく

©Akiko Ishihara 2016

## 福島若手・中堅リーダーへの水俣(紛争変容)ツアー

### セカンダリーな セオリーオブチェンジ:

3) 心の葛藤の変容

4) 分断を抱えた人々が、ともに修復的正義(的)な哲学に触れることで、関係性に変容が起こる

- ・福島内部での分断の変容 あるいは ネットワーキング
- ・福島在住者と、熊本避難者、熊本支援者、熊本の一般市民の関係性の変容

4) 水俣と福島の継続的な共に歩む関係

©Akiko Ishihara 2016

## 11月のツアー(南相馬、いわき、福島市、双葉郡から札幌への避難者)

1日目	2日目	3日目
<p>屋過ぎに到着 水俣駅前集合 ＜水俣病の歴史・現状学習＞ 町めぐり 水俣病資料館 坪壇 患者さんが行く温泉 夜は水俣の方と交流飲み会(運動系)</p>	<p>相思社の資料館 見学 語り部の方(吉永理巴子さん)との出会い ほっとハウス(胎児性患者さん)との出会い 語り部の方(杉本肇さん)との出会い 福田農場へ(美しい景色、水俣ブランドの明るい面) あばこんね(同世代20代～40代)との飲み会</p>	<p>熊本へ移動 熊大でのシンポジウム(熊本市民や熊本避難者への出会い) ©Akiko Ishihara 2016</p>

## 3月のツアー(南相馬、飯館村、福島市、東京への避難者)

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
<p>屋過ぎに到着 水俣駅前集合 ＜水俣病の歴史・現状学習＞ 町めぐり 水俣病資料館 坪壇 患者さんが行く温泉 夜は水俣の方と交流飲み会(運動系)</p>	<p>相思社の資料館 見学 永野三智さんとの出会い ほっとハウス(胎児性患者さん)との出会い 杉本肇さんとの出会い あばこんね(同世代)との交流@大沢菜緒子さん宅</p>	<p>吉本哲郎さん(地元学):山からみた水俣 福田農場へ海と触れる エコライブとキャンプファイヤー</p>	<p>吉永利夫さんによる「水俣ツアーでどうビジネスを考えるか」 熊本へ移動 熊大でのシンポジウム(熊本市民や熊本避難者への出会い) ©Akiko Ishihara 2016</p>	<p>緒方正実さんとの出会い 修復的正義赦しと闘い</p>

## Outcomes

1. 福島リーダーたちのエンパワメント
2. 水俣と福島のための継続的な交流の開始
3. 構造的暴力への気づき
4. 修復的な哲学のうまれ



新しいうまれた活動



## もやい直しと地元学

- ・水俣の地域の和解＝もやい直し
- ・あるもの探しとあるもの磨きの地元学

- 
- ・地元学は、自治の哲学である
  - ・構造的暴力⇔自治
  - ・自然とのつながり

- ・米須での地元学の取り組み

©Akiko Ishihara 2016

## 水俣のもやい直しの残された課題

・若い世代のもやい直し、行政と患者のもやい直しはだいぶ進んだ

——

・50歳代以上の世代

・チツソとの和解

チツソも世代交代—こじれて残る傷  
個人でなく組織

個人と国家、個人と組織は以下に和解ができるのか

©Akiko Ishihara 2016

## 東北アジア平和構築インスティテュート

韓日中台蒙の若者(18歳から70歳)が共に平和構築と紛争変容を学ぶ(2週間) 2011年から

毎年、被害地域等で行う。

韓国のDMZ、  
広島、南京、  
ウランバートル

台北、水俣・・・  
沖縄？



©Akiko Ishihara 2016